野十三郎詩集

ぼくはいるどころ

野十三詩集

いまいるところ

江苏工业学院图书馆
藏书章

浮游社

詩集　いま　いるところ

一九八九年七月七日

著　者　小野十三郎

発行人　中西　徹

発行所　有限会社　浮游社

〒543 大阪市天王寺区石ケ辻町三―一〇宝栄ビル四〇四号
電話 〇六（七七二）七六七二
振替 大阪七―四七八二五

定価　三五〇〇円（本体三三九八円）

組版／信和写植　印刷／大阪出版印刷　製本／平井製本

目次

I

前夜　亡き妻に…8
最後の声…12
終夜灯明はともっている…14
四本の牛乳壜…16
かわりばんこ…18
言いわけ…20
無題（1）…22
荷物…24
レモンのすっぱさ…26
無題（2）…28
ミナミにつれていってほしい…30
弱ってない足…32
フォークにスパゲッティをからませるとき…34
飛びとびに…36
やくそく…38
亡き妻よ、見えるか…40

II

白っぽけているもの…44
詩論が妨害する…46
しんどい…48
どっという感覚…50

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

無という言葉が……52
待ってる間に……54
書き終ったとき……56
異次元にあるもの……58
なにもないところで……60
無題も題だな……62
走る横線……64
無題（3）……66
安心……68
自動しているものは無い……70
言葉につきまとわれる……72
野暮用……74
枝から枝へ……76
無題（4）……78
夜明けは関係ない……80
いま、いるところ……82
いつも眼先に……84
無題（5）……86
草野心平……88
秋山清　1、2……90、92

Ⅲ

無題（6）……96
馬……98

眠ってる時のための工夫……100
長城が果てるところ……102
真下の海……104
二つの世界……106
運動……108
穴掘り……110
いま、夜が明けた……112
言葉なんてない……114
コトン……116
スウスウ、スウスウ……118
無題（7）……120
たのしみを無くせ……122
確認……124
眼先にあるもの……126
スーザホンで……128
無題（8）……130
無題（9）……132
いま、待っているもの……134

写真　小野寿枝子さん

跋　藤沢桓夫……137
編集おぼえ書き　寺島珠雄……141

題字　榊　莫山

詩集　いま　いるところ

I

前夜

亡き妻に

あなたは
もう遠く見えないところに
行ってしまったが
夜明まで
あなたの柩は
わたしと同じ屋根の下にいる。
だが、今夜が最後だ。
迎いの車が来て
あなたをを拉っていく。
わたしもワゴン車で
あなたのあとを追わなければならない。
まもなく夜明である。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com

灯明がともってる祭壇の前で
だれにもきこえない声で
呼びかけている。
表が明るくなってきた。
きょうの夜明はおそい方がよいのに。
も少しひとりでここにいたいのに
かあちゃん！

○

半開きの
襖の向うに
終夜灯明がともっている。
あなたはまだいた。
わたしは
原稿用紙をひろげて
あなたにあげたい詩を
一つ書いている。

夜明までに完成するだろう。
詩がきらいだったあなたは
決して喜ばないだろうが
ゆるしてくれ。
おれの慣性だ。
腕時計を見たら
四時が廻ったところだ。
詩はいま完成した。

○

一応行事は終った。
次は初七日だ。
それがすんでも
まだまだうたてい行事がつづく。
別世界に行ってもそうらしい。
地獄極楽。
赤鬼青鬼。

針の山、血の池。
あなたはそれがみなあることを信じていた。
わたしも信じようか。
これ、関係ないな。
あなたとは。

・うたてい＝うっとうしい、もの憂い、めんどうな

最後の声

かわいそうに
上を向いて臥ているだけで
寝返りも打てなかったから、おまえは。
しかし、おまえには
もうなんの感覚もなかったから
おれは心配しなかった。
最後に反射的に
おとうさん、とおれに云った声を
いま、想い出している。
早く死んで
いい亭主孝行をしてくれたよ。おまえは。
おれがこの通り

仕事をつづけているのはおまえのおかげだ。
おまえは詩がきらいだったから
おれは詩が書けたのだ。
もう、かわいそうにとは云わん。
夜あけだけを待っている。
おまえに一つ頼むことは
その夜あけを早く
来さしてくれることだ。
おれに。

終夜灯明はともっている

矢つぎばやに
詩ができることは
つまらんこった。
それは夜が明けることを
待ちに待っている
おれの望みとだけ直結して
おまえさんの知らないことである。
でも、いまおれの
ボールペンの動きを許してくれ。
これがとまったとき
おれは死ぬんだ。

此为试读，需要完整PDF请访问：www.ertongbook.com